

タイトル	かつての郷土の産業を体験する「麻の畳糸づくり」
名称（学校・地域）	長野市立鬼無里小学校
日時・場所等	秋～冬の活動 鬼無里小学校
ホームページアドレス	http://www.nagano-ngn.ed.jp/kinasajs/

鬼無里地域では今から約320年前から昭和40年代始めまで麻の畳糸づくりが盛んに行われておりました。しかし、化学繊維の急速な普及とともに産業は廃れ、現在では麻の栽培は行われておりません。そんな中、「信州麻プロジェクト」が麻の加工技術や伝統文化の伝承などを目指して活動しており、本校では10年前から、いっしょに麻糸を作る活動を行っております。

麻の畳糸作りは大きく6つの行程から成り立っています。



①麻煮（おに）…麻釜を使い、麻の幹を熱湯でゆでます。



②麻はぎ（おはぎ）…麻の幹から繊維をはぎます。



③麻かき（おかき）…繊維からいらぬ部分を麻掻き包丁（おかきぼうぎょう）でかきとります。



④麻績（おうみ）…麻掻きした繊維と繊維を細く割き、よりを入れて長くつなげます。



⑤麻撚（おより）…麻績して長くつないだ繊維を麻撚り機械で更によりを入れます。



⑥糸合わせ…よりを入れ、長くつないだ麻の繊維を糸合わせ機械に2本張り、更に撚りをかけ畳糸にします。

現在、長野県内で麻の栽培をすることはできません。そのため、栃木県から麻を発送してもらい原料を手に入れています。原料の入手だけでなく、実際に麻を糸にするまでは、とてもたくさん行程と時間がかかりますが、かつて麻を栽培し糸を作っていた歴史を知る大切な機会となっております。そして、鬼無里の畳糸は特に丈夫であったため、講道館の畳を作る糸に使われていたという話などを聞き、郷土に対しての誇りを高める活動ともなっております。